

令和7年度 佐久市総合計画審議会第1部会（第1回） 議事録

日時：令和7年7月2日（水）

午前10時～11時30分

場所：佐久市役所 701会議室

【出席者】高橋部会長、小松副部会長、柳澤委員、北山委員、池田委員、  
太田委員、鈴木委員、小嶋委員、三石委員、大井委員

【事務局】市村企画課長、小林企画調整係長、井出（吉）主任、鷲見主任、  
中澤主任、久保田主事

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（伊坂委員）

2 議事

（1）佐久市デジタル田園都市国家構想総合戦略の進行管理について  
質疑、意見

事務局	①総合戦略の概要について説明 ②『目標②【ひと(社会動態)】変革に即した大胆な移住(ヒト)の流れを実現する』について説明
部会長	基本目標1について、質問、意見等あるか。
委員	今後の取組方針のところ、転入・転出の理由を把握することが有効なことから、引き続き転入時におけるアンケート調査を実施し分析するとあるが、転出者のアンケートは取っているか。転出する理由を把握することは大事である。その理由を確認・分析することで、対応・対策が具体的に取れると思う。転出した子どもたちが戻ってきたいと思える佐久市の魅力発信も含めて、具体的なアンケート調査で見えてくることがあるため、是非実施していただきたい。
委員	人口減少対策は、子どもを増やすか、移住を増やすかのどちらかしか基本的にはないと思う。移住を促進される中で、移住後の支援として、交流会の開催が一度あった。移住を受け入れる入口

委員	<p>部分の発信に努めている印象があるが、交流会の開催以外に、移住して来た後、例えば3年後、5年後に移住者が佐久市での暮らしについて、どのように考えているかをモニタリングが必要ではないか。</p> <p>移住者の方に話を聞くと、家族で教育移住をされる方が多いが、定年後の第二の人生として過ごしたい方も多い様子である。家族で移住してくると、この先家族が増え人口増に繋がっていく可能性もあるが、定年後の住かを求めている方もいる中で、移住者の年代はどんな状況か。</p>
事務局	<p>令和6年度の転入者アンケート調査で見ると、30代から40代の子育て世代の方が多く、他に60代の方が多い状況である。</p>
事務局	<p>令和6年度の社会動態の状況を見ると、  0～4歳が32人の社会増、5～9歳が43人増、  10～14歳が36人増、15～19歳が88人減、20～24歳が33人減、  25～29歳が49人増、30～34歳が49人増、35～39歳が58人増、  40～44歳が81人増、45～49歳が41人増、50～54歳が1人減、  55～59歳が35人増、60～64歳が57人増、65～69歳が32人増、  70～74歳が31人増、75～79歳が26人増、80～84歳が8人増、  85～89歳が13人増、90～94歳が6人増、95～99歳が9人増である。数値を見ると、15歳から24歳までが大きく減少し、その後に伸びてくる状況。伸びてくるのがちょうど子育て世代で、子どもたちも一緒に来ることもあり、0歳から9歳までも同じ程度増えている状況である。第二の人生というところで60歳から74歳においても増加している状況がある。</p>
委員	<p>地域的な差は出ているか。</p>
事務局	<p>この情報は、国や県でまとめた実績値をいただき、佐久市全体としての状況を示しているものであって、各地域別の社会動態の情報はない状況である。しかし、望月や浅科などの各地域の社会動態について状況を把握することは必要なことであると思う。</p>
委員	<p>数値目標が人口の社会動態の増加数となっているが、単年度実</p>

	<p>績と累計値といった複数の表記があり分かりにくい。</p> <p>合併した時、佐久市は 10 万人都市だということを大々的に県内でPRした経緯がある。全国的にも人口が減少してきていることから、ある意味では競争して他の市町村からの移住者を増やすことが必要である。出生率を上げるには、経済環境や子育て環境によって、長い年月を要すると思う。人口減少が続く中で、人口増に向けるためには、いかに魅力的な市にしていくか、首都圏から移住して来ている人たちはどういうところに魅力があって来ているのかなど分析することが必要だと思う。そうすることで何をターゲットにしたらよいのか、PRしていく施策が変わってくるのではないかな。</p> <p>委員</p> <p>移住者の更なる拡大を目指して、人口対策、補助対策、住まいの確保など様々な取り組みをする中、空き家が非常に多いことから、空き家の利用について取り組むことが大事である。</p> <p>移住者に対する移住後の支援を大事にしたい。移住者に対して、各区において対応に困っていることあるかと思う。アパートの関係では、話す機会がなかったり、誰が住んでいるか名前も分からなかったりする状況である。移住者同士の交流だけではなく、地域の人との交流も大事であり、それが魅力の向上につながると思う。市民農園には都会から来る方が多く、その中で交流が生まれており、移住者と地域の人との繋がりを作ることにについて考えていくことが重要である。</p> <p>佐久市全体で高齢化が進んでおり、理由の1つとして子どもがいないことがあげられる。1人暮らしの高齢者、高齢のご夫婦、が多くなる中で、子どもたちが佐久市に戻ってくる気にならないのはなぜなのかを分析しなければならない。シビックプライドの醸成も良いが、それだけで対応できる状況ではないと思う。戻ってきたくなる、戻って来られない理由は何かをしっかりと把握しながら取り組むことが必要だと思う。</p>
事務局	<p>移住に対して、補助事業ばかりでは、他市町村と補助内容でしか比較することができない状況となってしまうことから、補助について競そうことはあってはならないと認識している。</p> <p>住まいの確保については、固定資産税の納税通知書の発送に合わせて空き家の把握をしたり、空き家バンクへの登録を呼びかけ</p>

委員	<p>たりしている状況である。</p> <p>移住者同士のコミュニティも大事だが、移住者と地域の人たちが交流することで、移住してきて良かったとってもらったり、地域の人にとっても新しい関係が構築できたりと、両社が良い方向に進んでいくと思っている。</p> <p>高校を卒業して進学や就職で首都圏に転出してしまう状況の中で、戻ってこない理由の一つとして、生活の根幹である仕事にある。自分が学んだことを活かさない、自分がやりたい仕事がないことがあげられる。これらの課題を解決するため、こういった取り組みが必要であるかを様々な面で訴求しながら検討したい。</p> <p>移住体験住宅利用件数の報告があり、109件ということであるが、これはあくまでも手段であることから、利用者がその後どのように移住の検討をしているのか動向を探る必要がある。体験して何が良かったか、どこが不便だったか等、アンケートを実施すると良いと思う。</p>
委員	<p>観光のあり方、魅力のあり方を改めて考えないといけない。行政主体で魅力あるイベントを実施し、多くの人が集まっているが、地域の人と一緒にイベントを創りあげることが大切である。例えば、飯田市のいいだ人形劇フェスタは、今国際的なフェスタになっており海外からの出演者もいるが、これは市民が運営スタッフとして行っている。市民みんなで作り上げていくという動きが生まれても良いのではないかと思う。</p> <p>観光においては、自分たちが観光や遊びに行く時は、その自治体だけではなく、周辺地域も行先の一つに加えていることがある。佐久市で考えるならば、南佐久の野辺山の方にも行ってみるなど、佐久市だけでなく、もう少し広域的な考え方で観光要素を繋ぎながら行う事業があっても良いと思う。</p>
事務局	<p>一過性のものに終わらないという中では、飯田市のフェスタのように、同じ価値観を持った人がおり、そこで自分が活躍できて活動の輪があることからリピーターが増え、これからの関わりにつながってくるのだと思う。例えば、バルーンフェスティバルを開催して人を呼ぶことは1つの手段ではあるが、その後の広がりについて、地域との深い関わりを目指すような観光政策をできるよ</p>

委員	<p>う内部で共有する。</p> <p>名探偵コナンの映画で、佐久平駅周辺も若い人たちが来て賑やかになっており、これも一過性のものでなく、若い人たちが佐久平に来た時に魅力を感じて、また来たい、住みたいと思える佐久市になると良い。</p> <p>③『目標④【まち】リアルとデジタルが融合する令和型「暮らしやすい」まちづくりを実現する』について説明</p>
部会長	<p>目標④について、質問、意見等あるか。</p>
委員	<p>防災訓練の実施の進捗状況の中で、組織化できない区を除きとあるが、この組織化できない区に対してのフォローはされているのか。</p>
事務局	<p>担当課に確認する。</p>
委員	<p>リアルとデジタルが融合するとはどういう意味か。</p>
事務局	<p>デジタルは、デジタル化という意味でオンライン申請や市民課の書かない窓口、スマホで各種施設の予約ができるなどで、リアルは、自分が実体験することなどを指している。</p>
委員	<p>市民が見たときに理解しやすい表現にする必要がある。</p>
委員	<p>空き家補助金の申請件数が0件となっている。市内には空き家がたくさんある中で、移住者は住居を探すのに苦労をしている。このような状況で、この補助金がなぜ使われないのか、その見解と、どのようにすれば使いやすくなるのかを聞きたい。</p>
事務局	<p>申請件数が0件というのはニーズに合っていないと思う。行政改革の観点で、補助金の必要性や、ニーズに沿っているのかを、令和8年度までかけて全ての補助金を見直すことに取り組んでおり、使いたくなるような必要な補助金に改めるよう所管課と協議していく。</p>

委員	<p>空き家の関係は、地権者と借りる側あるいは譲渡してもらう側との両局面がある。その中で支障になることが、売りたいが税金が高い、補助があるのかといった売り手側の思いや、賃貸するなら自分でリフォームができるのかといった借り手側の思いなど様々な問題があると思う。こういった状況について、民間の不動産会社と情報を共有しているのか、あるいは市の方で、移住者に物件を紹介していただけるのか。</p> <p>臼田地域の満足度が最も高かったとのことだが、他の地域と大きな差があるわけではなく、1つ言えることとして、上下水道が整っており、特に下水道が整っていることが都市部から来る人にとって必要条件のインフラであるとして受け入れられたのではないか。</p> <p>人口減少が進む中、中山間地に住んでいる高齢者からは、次の世代が周辺にいないと聞く。そういう人たちに対し、行政サービスが行き届くことが必要ではないか。コンパクトシティではなくコンパクトエリアについて考えていかなければならない時代になってきており、インフラ整備を進めることが、まちづくりでは必要だと思う。</p>
事務局	<p>空き家の流動化が進まない理由として、空き家になってから親の家財など様々なものが残っており、片付けることが大変であることがあげられる。</p> <p>コンパクトシティ、コンパクトエリアについては、これからの行政運営において、どこまで行政サービスを提供できるかが課題となる。市では、立地適正化計画を策定し、居住を誘導する地域として居住誘導区域を設けているが、中山間地をこうした区域として設けるにしても、様々な要因がある中で、市として中山間地にどのように行政サービスを持続的に届けていくかということ念頭におきながら、次期計画において反映させていきたい。</p>
委員	<p>地域の格差が生まれてきている。各地域において人が減るということは住みにくい部分があるからだと思う。住みにくさを感じる地域に対し、どのようにサービスを提供するかが大事である。</p> <p>浅間地域の本町区は岩村田の中心に位置し、かつては活気のある繁華街であったが、現在、50世帯で小学生は0人である。中山</p>

事務局	<p>間地も減っているが、まちの中心も減っている状況である。浅間地域では長土呂区に集まり、2000 から 3000 の世帯数となっている。こういった状況で様々な問題が出てくることから、各種課題を解消していかなければ本当のサービスに繋がらないと思う。</p> <p>これまで特徴ある発展と均衡ある発展という両輪で進めてきたところだが、格差の是正や、学校の通学区の問題など様々な問題がある中で、審議委員の皆さんからお知恵を拝借し、次期計画に生かしていきたいと思う。</p>
委員	<p>佐久平から中佐都を抜けて小諸へ抜ける道路ができる。これにより周辺の農振が外れてしまい、田んぼ全体が宅地開発されてしまう。そうでなくても中佐都駅の周りは分譲が進んでいる状況である。こういった状況の中、区に属さない方も多く、区としてまとまりが失われるのではないか。宅地開発は、なるべく各地域に分散させてほしいが、長土呂区に集中しており、農地が失われてきている。</p>
委員	<p>移住者へのモニタリングとして、なぜ長土呂区を選ぶのか調査してほしい。住宅が 5000 万、6000 万円するにもかかわらず、飛ぶように売れている状況で、なぜ他の区を選ばないのか生の声で聞き、他の区を選ばない理由について各区長と共有していく必要がある。</p> <p>この地区が大変、人口が少ないところほど役員が回ってくるらしいとなど、様々な情報が飛び交い、こういった先入観で、佐久市へ移住されてくるので、移住者の不安に思っていることを吸い上げてもらい、各区長の話も聞きながら、情報の非対象性というのを解消することが重要である。</p>
委員	<p>春日地区においては、どうしても子育てがしづらいことから若い世代が増えない。このことから高齢者が多く、子どもは転出して戻ってこない状況である。また、春日地区には小学生がほとんどいない状況である。望月小学校は今まで 2 クラスあったが、令和 7 年度の 1 年生は 1 クラスだと聞いている。長土呂区は子育てしやすい場所で、若い世代が集まるのだと思う。</p>

委員	<p>首都圏からの移住者には長土呂区が1番売りやすいと聞く。昔は果樹園などがあったが担い手がいなくなり売れてしまった。浅間小学校の南側の農振が外れることで、ほとんどが住宅で埋まってしまうのではないか。</p>
事務局	<p>子育ての観点について、望月に住んでいる人たちが高校に通うにも、送り迎えをしているという状況で、自分たちの子どもの世代にはこういった状況を渡せないということから住み替えが始まり、佐久平の周辺に来ていると思われる。</p> <p>移住者のモニタリングだけではなく、佐久平周辺に来る人が白田から行くのか、望月から行くのか、住み替えをする人たちの住みかえる理由は何かということ进行分析していかなければいけないと思う。</p> <p>佐久平浅間小学校の南側については、この土地をどうしていくかを検討する必要があるため、審議委員の皆さんからもお知恵を拝借したい。</p>
委員	<p>都市計画で農振を外すか外さないかという視点も含めて、学校を1校作るにどれだけ費用がかかり、20年後には人口がどれだけいるのかを考えて計画していく必要があると思う。</p> <p>首都圏からの移住者は、新幹線の駅の近くに集中してきていると思う。地元の人たちが戸建ての住宅を持てるエリアや、区画整理した団地的なものを開発していくことも必要ではないか。</p>
委員	<p>佐久市の人口を増やし、市を活性化するために佐久平周辺の開発に力が入っている。必要なことではあるが、周辺部への配慮がどうしても抜けてしまいバランスが難しい。各地域のバランスをとることは難しいと思うが、引き続き検討していく必要がある</p>
委員	<p>バランスをとった施策というのは難しく、おそらく職員の方々も頭を悩ましているところだと思う。入り口が大きくても、そこに住んでいる方がどれだけ満足しているのかを確認する必要がある。30代、40代の方々はどうしても住みやすいところを選ぶ。移住や引っ越してきた人たちのフォローも大事であるが、その他にも様々な課題がある中で、第1部会としてしっかりと検討し意見を出していきたいと思う。</p>

(2) その他

部会長	(2) その他について、事務局から何かあるか。
事務局	次回の開催は、7月25日(金)午前10時から、佐久市役所 議会棟全員協議会室となり、第1章 教育・文化・生涯学習分野 に係る審議を行う予定。資料については後日配布
部会長	全体を通して何かあるか。 ないようなので、以上で本日の全ての審議を終了とする。

3 閉会